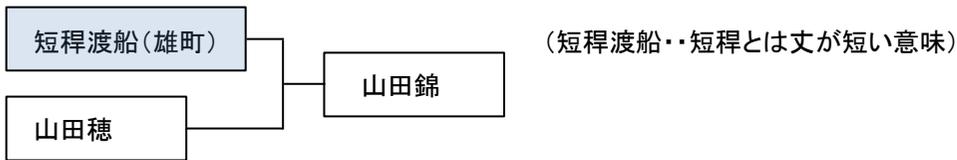


# 雄 町

- ・備前国(岡山県)高島村雄町の岸本甚造氏が伯耆国で発見1866年(慶応2年)に選抜改良された。
- ・現在栽培されている雄町は1921年(大正11年)岡山県農業試験場で純系分離されたものがもと。
- ・赤磐雄町、備前雄町、船木雄町、比婆雄町など、各地で独自の系統になったものがある。
- ・主たる産地は岡山県だが、広島県、香川県、福岡県、新潟県、大阪府など広く栽培されている。
- ・生産量は山田錦の10分の1程度で少なく、近年人気が高まって比較的入手難となっている。
- ・軟質米で心白が大きいいため高精白が難しく、杜氏は雄町が使いこなせたら一人前と言われる。
- ・山田錦の親※にあたり、また移民と共にアメリカに渡ってカリフォルニア米の先祖となった。



- ・五百万石も雄町の子孫※にあたるため、酒造好適米のほぼ8割が雄町由来と言われている。



## ○その他「雄町」由来のおもな酒米

愛山 秋田酒こまち 石川酒30号 神の舞 吟のさと 吟吹雪 金紋錦 こいおまち  
越淡麗 さがの華 千本錦 龍の落とし子 玉栄 華想い 兵庫夢錦 豊盃 若水 兵庫錦

## ○「渡船」について

- ・山田錦の親にあたる「渡船(短稈渡船)」は、もともと福岡県産の「雄町」と推定されている。
- ・明治28年、滋賀県の試験場が各地の雄町を集めた際、ひとつが塩水撰中に来歴不明となった。
- ・消去法で福岡から船で渡って来た雄町と推定されたことから仮に「渡船」と命名され定着した。
- ・滋賀県は純系淘汰により10年間に6種類の渡船を固定し、「2号」「4号」「6号」が残ったとされる。
- ・一方兵庫県試験場が山田錦開発のため大正7年頃取り寄せた「短稈渡船」はどれなのか不明。
- ・特性から、滋賀県の「渡船2号」が兵庫県でいう「短稈渡船」だろうと推定されている。
- ・近年「渡船」を使う蔵が増えて来ているが、多くは長稈種の「渡船6号」で、「2号」は少ない。

(おもな参考資料: 兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告より、酒米ハンドブックより)